

令和5年度第2回庄原市外国語教育研修会

令和5年11月9日（木） 庄原市立東城小学校

<研修会の目的>

- ・ 小学校外国語科の授業研究を通して、本市小学生の実態及び小学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・ 外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深めるとともに、校区内の小学校、中学校の取組や状況について協議することを通して、本市外国語教育の充実に資する。

【研究授業】第5学年 Unit6 「What would you like?」

～東城カフェでALTの先生をおもてなししよう！～

授業者 庄原市立東城小学校 教諭 佐伯 彩夏、ALT Anna Dequit

本時の目標

ALTに自分たちの地域の食の魅力を知ってもらうために、これまでに学習した表現を使ったり、他にも見えそうな表現について考えたりすることができる。

<指導のポイント>

☆魅力的な単元のゴールの設定

⇒庄原市の4名のALTが来校することを伝え、どのようにもてなすかを含め、単元のゴールを児童から引き出し、「やってみよう！」「伝えたい！」という意欲をもたせる。その際、ALTとのデモンストレーションから、やり取りのイメージをもたせるとともに、児童自身が伝えたい内容を考えさせる。（※単元のゴール…「東城カフェでALTの先生をおもてなししよう！～4人のALTの先生に東城の魅力を英語で伝えよう～」）

☆単元のゴールを想起させ、思考を深めさせる中間指導

⇒ALTと事前に連携し、本時では、注文時に困っているALT役を行ってもらおう。そのALTの様子から、おもてなしをするには、何をどのように伝えたら良いかを児童に考えさせ、再チャレンジさせる。



【研究協議】児童のコミュニケーション能力の育成に向けた指導の工夫について

<協議内容>

- とても良い表情で、ためらうことなくやり取りをしていた本時の子供たちの姿から、ゴールを明確にすること、相手意識をもつことのできる場を設定することを意識していきたいと感じた。
- 児童の実態を把握し、単元計画を立てることが大切であると改めて実感した。
- ALTとのやり取りを工夫して行うことで、どのような表現をしたら良いか等、児童の思考を深めることができるため、自身の授業でも取り入れたいと思った。
- 魅力的なゴールの設定と表現をスモールステップで学習させていくことを見習いたい。また、本時のように、単元のゴールや実際の場面を子供たちが想起することで、主体的に学ぶことができると感じた。



【講話・演習】「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた外国語科の授業づくりについて～小中連携を軸に考える～」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 藤井 遥

■本市の外国語教育の現状と課題から、外国語科の授業づくりのポイントを再確認するとともに、事前課題をもとに、それぞれの校区で小学校と中学校の円滑な接続に向けた指導について交流・協議を行った。

- ☑言語活動を充実させること
- ☑児童生徒の様子を見取り、評価・指導すること



【参加者の振り返りより】

- ・ 目指す子供たちの姿をイメージし、どのような言語活動を仕組むかを考え、授業づくりに取り組みたい。
- ・ 小学校での学びを継続することを大切にしたい。例えば、小学校で行われていることを把握し、それを中学校での学びに繋げられるようにする。そのために、情報共有や意見交換の場が大切であると感じた。
- ・ 中学校での取組を聞き、小学校の授業づくりにおいて生かすことができる取組が多々あると感じたため、実践していきたい。